

2026 年第 11 週の報告です。

インフルエンザの定点当り報告数は全国・京都府ともに先週に比べさらに減少しましたが、まだ警報の継続基準値（10 件）は上回っており、警報レベルが継続しています。山城北の咽頭結膜熱と南丹の A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は今週も警報レベルが続いています。水痘は京都府全域で警報解除となりました

全数把握対象疾患は、結核が 8 件、腸管出血性大腸菌感染症・レジオネラ症・劇症型溶血性レンサ球菌感染症・後天性免疫不全症候群（HIV 感染症を含む）・侵襲性肺炎球菌感染症・百日咳がそれぞれ 1 件、梅毒が 2 件報告されました。

さて、インフルエンザの報告数の減少に伴い、急性呼吸器感染症（ARI）の報告数も減少してきました。ARI は、いわゆる風邪（感冒）様症状（咳、鼻みず・鼻づまり、のどの痛み、呼吸困難感）を呈する急性感染症の総称です。その中には、インフルエンザをはじめ、COVID-19（新型コロナウイルス感染症）、RS ウイルス感染症、咽頭結膜熱、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、ヘルパンギーナなど多様な疾患が含まれます。

ARI は、令和 7 年 4 月 7 日から感染症法上の 5 類感染症に位置付けられ、新たに定点サーベイランス（指定医療機関を対象とした長期的な感染症発生動向調査）の対象となりました。これは COVID-19 の世界的流行の経験を踏まえ、呼吸器感染症の有症状者全体の動向を逐次把握することで、仮に未知の感染症が発生し拡大し始めたとしても、迅速に探知できるようにする体制を整え、住民への注意喚起や医療的準備など公衆衛生対策の向上につなげようとするものです。

ARI サーベイランスは、運用され始めて間もないことから、長期的な変化を捉えるには、まだデータが不足している状況ですが、現在の報告数は、昨年 4 月並みの水準に近付きつつあることから、冬季の「風邪」シーズンから抜けつつあるように思われます。

ただ、流行シーズンが終わっても、ARI は通年一定数の報告があります。また、季節の変わり目には、体調を崩される方も多いためです。引き続き、流水・石鹸による手洗いやアルコールなどによる手指の消毒、マスクの着用などによる咳エチケットを心がけ、室内は適度な湿度（50～60%）を保ちつつ、こまめに換気もしましょう。体調不良を自覚した場合は、なるべく人混みへの外出は避け、登校・出勤も可能な範囲で控えましょう。

○京都府の ARI 発生状況はこちら：

[急性呼吸器感染症（ARI）について／京都府感染症情報センター](#)

○ARI に関する国の Q&A はこちら：

[急性呼吸器感染症\(ARI\)に関する Q&A | 厚生労働省](#)